

季節の変わり目がやってきます！「子牛の体調変化」にご注意を！

9月の残暑は人も牛にも厳しい気温でした。この先は朝夕の寒暖差とつきあう季節になります。今年、秋を迎える前に子牛の環境を再チェックしてみませんか？？ほ育期間の気温および下痢が牛の発育に影響するとの研究では、平均気温夏 20.2℃と秋平均気温 5.5℃の場合、増体量の差で夏 0.88kg/日 秋 0.68kg/日と 0.2kg の差にもなるとの報告もあります。(2009.大坂)

1、環境温度の対策

- ・10月上旬には平年最低気温が6℃付近となりますので、10月にはカーフジャケット等の利用を始めましょう。体力の消耗が激しい子牛は容態が変わりやすいので、弱い子牛には保温をしっかりと行います。
- ・新生子牛は体温調節機能が十分ではありません。日中と夜温を考慮し一時間かける必要があります。(夜は牛舎窓をしめる・ハッチ前にシートをたらす等)
- ・日中のお日様を活用できるよう、ハッチの向きを変える。(入り口を南向きにする)

ポイント：日中の窓の開閉など換気を確保しつつ保温環境を整えることが重要です。

2、体調不良牛の早期対応

下痢等を早くに見つけ、軽度で治療につなげば脱水など重症化せず短期間での回復が望めます。また、治療集中スペースの確保を行うのも一つの手段です。新生子牛スペースとして人が一番管理しやすく、見やすい場所に子牛を置く(電気・お湯による保温)。早めの処置が重篤化を回避します。

3、ほ乳管理に使える管理作業省力化事例

【普及センターHPに掲載中です。<http://www.tokachi.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index3.htm>】

	アイテム例	省力作業	概要
1	ディッピング容器を活用した運搬車	仔牛運搬	ディッピング剤容器を活用して台車作成。乗せる位置低く牛が暴れないので運びやすい。
2	電動カートの利用	ミルク運搬	ほ育舎までの運搬に電動利用。作業が楽。
3	市販ほ乳瓶ホルダー保定工夫	ほ乳瓶持ち	垂木で市販ホルダーを固定。
4	バケツ洗濯機でミルク作り	ミルク作り	用途は違いますが、攪拌機能を利用。

各アイテムの資料がありますので、ご興味のあるアイテムがあれば普及センターまでお知らせください。

*畜産 FAX 情報とお伝えください

～お問い合わせ先：十勝農業改良普及センター 0155-67-2291まで～